

平成 21 年 4 月 3 日現在

研究種目： 基盤研究 (B)

研究期間： 2006～2008

課題番号： 18320121

研究課題名 (和文) 西洋史における国民国家とアイデンティティ複合

研究課題名 (英文) Nationstate and Identity-Complex in European History

研究代表者

松本 彰 (MATSUMOTO Akira)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号： 50165875

研究成果の概要：

本研究プロジェクトは2007年6月に新潟朱鷺メッセで行われた日本西洋史学会での報告のために組織された。2006年度は学会報告へ向けての準備を行い、2007年度は学会報告と学会での議論を発展させるための研究を展開し、2008年度は3年間の研究を総括した。予定していた海外調査は、2006年度はドイツとオーストリア、2007年度はアメリカ合衆国、2008年度はロシアで行い、大きな成果を得ることができた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
2007年度	6,300,000	1,890,000	8,190,000
2008年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
年度			
年度			
総計	17,000,000	5,100,000	22,100,000

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 西洋史

キーワード： 国民国家 市民社会 移民

## 1. 研究開始当初の背景

松本は2000～2002年度にかけて科研プロジェクト「フランス革命とヨーロッパ近代-帝国と国民国家-」の代表者として研究を行い、その成果は、2005年に『国民国家と帝国—ヨーロッパ諸国民の創造』(山川出版社)として公刊された。本プロジェクトはその成果を継承しさらに発展させるべく、テーマを「国

民国家とアイデンティティ複合」とした。1990年以降、ヨーロッパでは冷戦の終結とヨーロッパ統合が進む中で「国民国家」、「市民社会」についての研究がすすみ、「トランスナショナルな方法」についての議論が発展していた。

## 2. 研究の目的

とくに研究状況として、以下の3点に注目した。

(1) 「国民国家」は、従来、国制史、政治史を中心に議論されてきたが、最近では文化史が注目されている。ピエール・ノラ編『記憶の場』に象徴されるように、記憶、記念をめぐる議論が盛んになり、「文化的記憶」、「記憶論的転回」が注目されている。

2) 「国民国家」の「理念と現実」があらためて問われている。とくに19世紀から20世紀への「国民国家」への移行、その分水嶺としての第一次世界大戦が研究の焦点になっている。「国民国家」の理念よりは現実に関心が向かう中で、第一次世界大戦以後の「国民国家と住民移動」について関心が高まっている。

3) 「国民国家」は19世紀と20世紀に成立、発展し、その中で近代歴史学が生まれた。「国民の歴史」の批判的検討がすすみ、「国民国家」論は、前近代史、中世史や古代史にとっても重要な問題として意識されるようになっている。

これらの諸点を検討するために、多彩なメンバーによる研究プロジェクトとなった。

## 3. 研究の方法

日本西洋史学会では二つのシンポジウムを企画し、そのための準備をすすめ、学会後は、そこでの議論をさらに発展させるために、研究会を重ねた。

「国民国家」論研究の焦点の一つは、「記憶」論である。「国民の記憶」を問題にするために、国民的記念碑について、海外調査を行うこととした。事前に研究会を行い、国民的記念碑をめぐる最新の研究をふまえて調査を行うこととし、調査後にも総括研究会を行い、成果を確認することができた。

プロジェクトをすすめていく中で、他の研究プロジェクト、とくに東京外国語大学の「市民社会とマイノリティ」研究プロジェクトや、東大・ハレ大学の「市民社会の日独比較」をテーマとする共同大学院との研究交流は有意義であった。

## 4. 研究成果

2007年の日本西洋史学会は、「国民国家と市民社会、そして戦争」を統一テーマにし、本プロジェクトが中心になって二つのシンポジウムを行った。

「国民国家とアイデンティティ複合」をテーマとする全体シンポジウムでは、研究プロジェクトのメンバーから松本 彰、野村真理、山本明代、佐々木博光がパネラーとして、立石博高が司会として参加し、ゲスト・コメンテーターとして、アジア史の岸本美緒氏を招き、「国民国家」研究の現状を問題にした。

「市民社会と社会問題」をテーマとするシンポジウムには、パネラーとしてメンバーから北村昌史が参加し、連携研究者の丸島宏太が司会を行った。

西洋史学会後、学会での議論を発展させるべく、海外調査をふくめて精力的に研究活動を行った。

海外調査は、2006年度にドイツのベルリンとオーストリアのウィーン、2007年度にアメリカ合衆国のワシントン、ボストン、ニューヨーク、2008年度にロシアのモスクワ、ノヴゴロド、サンクト・ペテルブルクを調査した。これにより、「国民国家とアイデンティティ複合」を歴史的に検討する基礎視座を確認することができた。

ドイツ、ロシア、アメリカは、18世紀の末に国民国家としての形成をはじめ、19世紀に国民国家として発展し、20世紀の二度の大戦を経験した。1989年のベルリンの壁崩壊後

の激動の中で、分裂していた東西ドイツは統合し、ロシアはソ連邦の解体の中で再出発した。ドイツもロシアも、「国民の日(National Day)」は1990年を記念している。一方、アメリカ合衆国は、オバマ新大統領の就任演説に見られるように、200年以上の国民国家の伝統を強く意識しており、「国民の日」は18世紀の独立戦争を記念している。

グローバル化が進出し「国民国家」についての議論が活発になっているが歴史学からの検討は不十分である。「国民国家の理念と現実」を問題にするためには、「国民国家とアイデンティティ複合」について多面的に検討する必要がある。今後もこのテーマの研究を深めていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

①松本 彰「ハーモニーの科学、美学、工学—ヨーロッパ音楽と鍵盤楽器」『19世紀学研究』(査読有) 第3号、9-26頁、2009年

②田中 景「19世紀初頭ギリシア独立戦争とアメリカの自他認識」、『19世紀学研究』(査読有)、第3号、183-205頁、2009年

③北村昌史「ブルーノ・タウトとベルリンの住環境—1920年代後半のジードルンク建設を中心に」『史林』92巻1号、70-96頁  
2009年、査読有

④田中 景、“Photographs of Japanese ‘Picture Brides’: Visualizing Immigrants and Practicing Immigration Policy in Early 20<sup>th</sup> Century United States,” *American Studies* (American Studies Institute, Seoul National University) (査読有), No. 31, 25-54, 2008.

⑤立石博高、“La Constitución de Cádiz de 1812 y los conceptos de Nación/Ciudadano”,

*Mediterranean World* (by the Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University) (査読無), XXIX July 2008, pp. 79-98.

⑥松本 彰「市民社会と国家、そして戦争」『*Quadrante* クアドランテ 地域・文化・位置のための総合雑誌 (東京外国語大学海外事情研究所)』(査読無) No.10、113-127.2008年。

⑦森田直子「歴史学における『世紀』」『19世紀学研究』(査読有) Vol1、2008年、141-154頁

⑧山本明代、*Reorganization of Gender Relations among East European Immigrants in the United States: Realities and Representations*, *Nanzan Review of American Studies*, (査読無)、Vol. 30、2008、pp.121-130

⑨細田あや子「洗礼の図像解釈—オットー朝写本挿絵を中心に」『比較宗教思想研究』(査読無) 7号、47-84頁、2007年

⑩山本明代「ハンガリー越境作家の経験と作品、その社会的意味—アゴタ・クリストフを中心に」『人間文化研究年報』(査読無) 2、15-18、2007年

[学会発表] (計 10 件)

①田中 景、“Vain Women’ Come to America: Photography, Marriage, and Image of Immigrant Japanese Women in Early 20<sup>th</sup>-Century California.” Panel: Continuities and Changes of Marriages Across Borders. 14<sup>th</sup> Berkshire Conference on the History of Women. University of Minnesota, Minneapolis, MN, USA. June 13. 2008.

②松本 彰「ドイツ記念碑論争 1985-2008」、ドイツ学会シンポジウム「記憶と想起の空間—ドイツにおける歴史意識のアクチュアリティ」筑波大学 2008年6月21日

③松本 彰「19世紀ドイツの合唱運動における *Bürger, Nation, Volk*」日独共同大学院プロジェクト、東京大学(駒場)、2008年3月

19日

④ 田中 景、"Photograph of Japanese 'Picture Brides': Visualizing Immigrants and Practicing Immigration Policy in Early 20<sup>th</sup> Century America." Multiple Immigration: US Immigration in the Global Context. American Studies Institute, Seoul National University, Seoul, Korea. November 1-2, 2007.

⑤ 松本 彰「中欧におけるドイツ人」と三回の＜ドイツ統一＞」

⑥ 山本明代「第一次世界大戦と移民コミュニティの再編ーアメリカ合衆国のハンガリー王国出身移民ー」

⑦ 野村真理、「中欧ユダヤ人のアイデンティティ複合とシオニズム」

いずれも、日本西洋史学会第57回大会シンポジウム「国民国家とアイデンティティ複合ー中欧における帝国、国民、民族ー」報告 2007年6月16日、朱鷺メッセ（新潟市）

⑧ 北村昌史「ドイツ自由主義と住宅問題」（小シンポジウム「市民社会と社会問題ー18-19世紀ヨーロッパにおける政治、経済、社会」）日本西洋史学会第57回大会、2007年6月17日、朱鷺メッセ（新潟市）

⑨ 北村昌史「ドイツ統一（1871年）前後の住宅改革構想」西洋史読書会大会第74回大会、2006年11月3日、京都大学

⑩ 北村昌史「Bürgertum und Urbanisierung in internationalen Vergleich. Zur Rezeption der deutschen Geschichte in den Ländern Ostasiens（第1回韓中日ドイツ史学会）テグ大学（大韓民国）、2006年12月2日。

〔図書〕（計 7 件）

① 野村真理『ガリツィアのユダヤ人ーポーランド人とウクライナ人のはざままで』人文書院、全270ページ、2008年

② 姫岡とし子、長谷川まゆ帆、松本彰他4名

『ジェンダー（近代ヨーロッパの探求 11）』ミネルヴァ書房、執筆111-161頁、2008年

③ 南川高志、服部良久・小山哲・橋本伸也、佐々木博光他6名『知と学びのヨーロッパ史ー人文学・人文主義の歴史的展開ー』ミネルヴァ書房、執筆167-192頁、2007年

④ 森田直子、"Wie wurde man Stadtbürger? Geschichte des Stadtbürgerrechts in Preu"sen im 19. Jahrhundert", Peter lang (Frankfurt am Main)、全230頁、2008年

⑤ 北村昌史『ドイツ住宅改革運動ー19世紀との都市化と市民社会』全524頁、京都大学学術出版会、2007年

⑥ 立石博高『世界の食文化 14 スペイン』農文協、全286頁、2007年

⑦ 細田あや子、渡辺和子他11名『異界の交錯 下巻』、執筆297-336頁、リトン、2006年

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松本 彰 (MATSUMOTO Akira)  
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授  
研究者番号： 50165875

### (2) 研究分担者

立石 博高 (TATEISHI Hiroataka)  
東京外国語大学・外国語学部・教授  
研究者番号： 00137027 (2008年度連携研究者)

山本 明代 (YAMAMOTO Akiyo)  
名古屋市立大学・人文社会系研究科・准教授  
研究者番号： 70363950 (2008年度連携研究者)

北村 昌史 (KITAMURA Masashi)  
大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号： 20242993

佐々木 博光 (SASAKI Hiromitsu)  
大阪府立大学・人間社会学部・准教授  
研究者番号： 80222008 (2008年度連携研究)

究者)

高橋 秀樹(TAKAHASHI Hideki)

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授

研究者番号： 80236306

細田 あや子(HOSODA Ayako)

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授

研究者番号： 00323949

田中 景(TANAKA Kei)

新潟県立女子短期大学・国際教養学部・講師

研究者番号： 70389948 (2008 年度連携研

究者)

野村 真理(NOMURA Mari)

金沢大学・経済学部・教授

研究者番号： 20164741 (2008 年度連携研

究者)

森田 直子(MORITA Naoko)

新潟大学・人文社会・教育科学系・助教

研究者番号： 3045064

### (3)連携研究者

池田 嘉郎(IKEDA Yoshio)

新潟国際情報大学・情報文化学部・専任講師

研究者番号 80449420

丸畠 宏太 (MARUHATA Kota)

敬和園大学・人文学部・教授

研究者番号：20202335

### (4)研究協力者

中谷 昌弘 (NAKATANI Masahiro)

新潟大学・人文学部・非常勤講師

伊東 直美 (ITO Naomi)

東京大学・大学院総合文化研究科・大学院生

小野寺 拓也 (ONODERA Takuya)

東京大学・大学院教育学研究科大学経営・政

策コース・事務補佐員 (非常勤)